

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

| | | | | | |
|----|--------|----|------|----|--------------------------------|
| 氏名 | 池田 佐輪子 | 職名 | 専任講師 | 学位 | 修士 (人間関係学) (北九州市立大学 2014 年) |
|----|--------|----|------|----|--------------------------------|

| | |
|-------|---|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| 臨床教育学 | 代替的愛着、行動制御システム、内的作業モデル、 自我・社会性の発達、養育者支援、就学支援 |

| |
|--|
| 研究課題 |
| 臨床教育学に関して、保育所保育士による代替的愛着形成と発達支援を中心に考察する。特に、養育者との愛着に歪みを感じられる虐待的環境にある子ども、発達に偏りが感じられる子どもの育ちを保障するための保育士の関わりについて考察する。保育所での3歳未満児に対する代替的愛着関係が、養育者と子どもとの愛着の修復に有効であること、その愛着関係を基盤に就学までの養育者支援として応用していく方向を検討・考察する。 |

| |
|---|
| 担当授業科目 |
| 保育者論 (前期) 在宅保育 (後期) 乳児保育Ⅱ (前期) 乳児保育Ⅰ (後期) こども文化 (前期) 保育・教職実践演習 (幼稚園) (後期) こども学基礎演習 (通年) 保育総合表現 (後期) こども学特別演習 (通年) 保育実習指導Ⅰ (通年) 保育実習指導Ⅱ、Ⅲ (通年) |

| |
|--|
| 授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項) |
| <p>授業科目名【 保育者論 】</p> <p>テキスト、参考書等を使って、専門職である保育士、幼稚園教諭等の資格を取得するために必要な基本的知識・技能、倫理観をもれなく学べるように心がけた。また実務家教員として保育現場での実践を踏まえ、具体的な事例を織り交ぜて説明することで、社会に求められる望ましい保育者についての理解を促した。オンライン授業であることを踏まえて事前に課題を提示し、個別に考えをまとめたうえで発表を行うことで、自分の意見をもち、他者と意見交換することで多面的な思考ができるようにした。</p> |
| <p>授業科目名【 在宅保育 】</p> <p>基本となる保育士としての知識・技能・倫理観等に加え、居宅訪問型保育に対応できる実践力・応用力を身に付けることを重視し、身近にあるペットボトルや牛乳パックなどを利用した玩具作り、子どもの発達に応じた遊びの展開等、学生が主体的に考え、意見を交換しながら保育内容を検討する授業をオンライン上で行った。また子どもの発達や家庭状況に応じた保護者の子育て支援についても事例を取り上げながら検討した。</p> |
| <p>授業科目名【 乳児保育Ⅰ 】</p> <p>まずは保育所実習で3歳未満児と関わることを念頭に、3歳未満児のイメージがもちやすいように、写真や実践例が多用されているテキストを用い、基本的な3歳未満児の発達とその発達を促す望ましい関わりとその留意点についてオンラインで講義を行った。また対面授業においては保育人形を使って、着替え、おむつ交換、授乳、ふれあい遊びなどの演習も取り入れ、具体的に関わり方の基礎が学べるようにした。</p> |
| <p>授業科目名【 乳児保育Ⅱ 】</p> <p>1年生での保育所実習も振り返りながら、乳児保育Ⅰでの学びを踏まえて、知識に加えて現場での事例を交え、より現場での保育のイメージがしやすいように説明をしていった。また学んだ知識を応用しながら実習及び現場での実践につながるよう指導計画を立てて検討し、保育所実習Ⅱで活用できるようにした。人形や教材を使って演習も行い、具体的に実践につなげるようにしていった。</p> |

| |
|---|
| <p>授業科目名【 こども文化 】</p> <p>具体的な子ども文化財の資料を活用して説明し、オンライン上で教員が資料を用いてデモンストレーションを行い、実践のイメージがもちやすいようにした。また、学生が各自で実際に制作したものを、対面授業で発表することで実践力を身につけると共に、他者の様子も見て学ぶこともねらいとした。さらにお互いの評価点や改善点を伝え合うことで、より工夫した作品を作り、実践する意欲が高まるように心掛けた。特に認定絵本士の取得を視野に、外部講師の協力等も求めて絵本に関する知識、技術が身につくようにした。</p> |
| <p>授業科目名【 こども学基礎演習 】</p> <p>子どもや保育への理解を体験的に深めることができるように、学生が主体的に考え工夫し、他者と協力しながら活動することを意識しながら授業・演習を行った。実際に子どもたちと触れ合う機会はほとんどもてなかったが、学んだことを確認したり軌道修正したりしながら、実践力が定着するように心がけた。</p> |
| <p>授業科目名【 こども学特別演習 】</p> <p>学生の主体的な学びを重視しながら、積極的に企画を出し合い、近隣の幼稚園や保育所、親子ふれあいルームなどに出向いて子どもたちと触れ合いながら、応用的な実践力が身につくように計画をしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんど実践できなかつたことが残念であった。その中でもオンラインでできる活動を工夫し、それぞれの自宅において楽しみながら実践力を身に付けることができたと思われる。</p> |
| <p>授業科目名【 保育実習指導Ⅰ 】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で実習の制約はあったものの、実習先の理解と協力によって感染症に留意しながら子どもたちを守り育てるための実習に向けた学びができた。様々な児童福祉施設の特色を理解したうえで、授業で学んだことが実際の保育実習現場で活かせるように、また実習を通して自分の課題に気付いて次の実習に向けた改善ができるように、それぞれのねらいを明確にする自己課題シートや自己振り返りシートを活用した演習を行った。</p> |
| <p>授業科目名【 保育実習指導Ⅱ、Ⅲ 】</p> <p>自己課題振り返りシートを用いて保育実習Ⅰでの課題を明確にすることで、次の実習で課題の解決に向けた具体的な取り組みができるようにしていった。またオンライン上でお互いの課題の情報交換をすることで課題を多面的に捉えて解決に向けられるようにしていった。</p> |
| <p>授業科目名【 保育・教職実践演習（幼稚園） 】</p> <p>実際に保育指導計画を作成して対面授業で模擬保育を行うことで、保育の実践力を養った。また、全員で保育を振り返り、様々な意見を出し合うことで、多面的な視点をもって課題解決に向けた関わりができるようにしていった。</p> |
| <p>授業科目名【 保育総合表現 】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた本学マロリーホールを会場に、市内の幼稚園、保育所の子どもたちを招待して作品の発表を行うことはできなかったが、これまで学んできたことを総合的に活用し、学生同士でアイデアを出し合っ、現場で活用できる劇あそびのシナリオ作りを行った。演技・演出に加え、音響や照明も学生同士で話し合い、困難を乗り越えていく喜びを感じられるように心掛けた。教員はできるだけサポートに回り、学生の主体性を引き出しながら作品の完成へと導いた。</p> |

| 学 会 に お け る 活 動 | | |
|-----------------|----------|---------------|
| 所属学会等の名称 | 役職名等（任期） | 加入時期 |
| 保育学会 | | 2018年5月～現在に至る |

| 2019年度 研究業績等に関する事項 | | | | |
|-------------------------------------|---------|-----------|--------------------------|---|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| (著書) | | | | |
| (学術論文) 保育所における子どもの愛着形成の理解と支援 その3 | 共著 | 2021.3 | 北九州市立大学文学部紀要（人間関係学科）第28巻 | ① 養育者との愛着形成に問題を抱えた、発達の状態に課題を持つ子どもとその保護者に対し、保育所で行う代替的愛着形成と就学に向けた養育者支援について論じた。 ②共著者名 楠凡之 |
| (学会発表) | | | | |

| 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む） | | | |
|---------------------------------|------|--------------------|-----------------|
| (1) 共同研究 | | | |
| 研究題目 | 交付団体 | 研究者 ○代表者（）内は学外者 | 交付決定額 (単位：円) |
| | | | |

| 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む） | | | |
|---------------------------------|------|-----------------|----|
| (2) 個人研究 | | | |
| 研究題目 | 交付団体 | 交付決定額 (単位：円) | 備考 |
| | | | |

| 社会における活動等 | | |
|--------------------------------|---------------------|----------------------------------|
| 団体・委員会等の名称 (内容) | 役職名等 | 任期 期間等 |
| ・ コラボラキャンパスネットワーク 親子ふれあいルーム | 実行委員 オブザーバー | 2009年4月～2015年3月 2015年4月～現在に至る |
| ・ 特別非営利活動法人 チャイルドライン北九州 | 理事 | 2013年3月～現在に至る |
| ・ NPO 法人あゆみの森共同保育園 | 苦情解決体制における 第三者委員 | 2018年9月1日～2021年3月31日 |

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

| | |
|-------------|---------------------------|
| 図書委員会 (副委員) | 2018年4月～現在に至る |
| 学生募集委員会 | 2020年4月～現在に至る |
| 教員免許状更新講習講師 | 2020年4月1日～2021年3月31日 (中止) |
| 北九州市民カレッジ講師 | 2020年11月 (中止) |